



## 平成22年10月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

### ① 売上高・前年同月比

	全 店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	46,040,483 万円	100.0%	103.1% (103.5%)	43,804,118 万円	100.0% (99.9%)
食 料 品	37,975,457 万円	82.5% (83.0%)	103.7% (103.5%)	36,061,533 万円	100.4% (99.7%)
農 産	5,798,429 万円	12.6% (12.6%)	110.9% (104.9%)	5,542,844 万円	107.0% (101.3%)
水 産	3,741,164 万円	8.1% (8.1%)	99.9% (99.6%)	3,525,087 万円	96.4% (96.0%)
畜 産	4,460,858 万円	9.7% (9.2%)	103.1% (101.6%)	4,228,247 万円	99.6% (97.9%)
惣 菜	3,874,919 万円	8.4% (8.7%)	105.3% (104.9%)	3,679,697 万円	101.5% (100.9%)
日配食品	8,699,781 万円	18.9% (19.2%)	101.9% (104.6%)	8,252,020 万円	99.9% (100.8%)
加工食品	11,400,306 万円	24.8% (25.2%)	102.7% (103.7%)	10,833,638 万円	99.1% (99.7%)
生活関連	3,413,139 万円	7.4% (7.4%)	100.4% (101.6%)	3,261,438 万円	97.7% (98.9%)
衣 料 品	1,858,285 万円	4.0% (3.3%)	97.4% (93.8%)	1,793,985 万円	95.8% (92.3%)
そ の 他	2,793,602 万円	6.1% (6.3%)	102.4% (111.3%)	2,687,162 万円	99.8% (108.5%)

### ② 数 値

全店総売上高	46,040,483 万円	店 舗 数	4,046 店舗
総売場面積	7,731,578.4 m <sup>2</sup>	総従業員数	220,192 人

店舗平均月商	11,379.3 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,838 円 (104.2%)
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.0 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	1,910.9 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	19.7 万円 (19.5 万円)	パート比率(前月)	76.5% (76.5%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 《 全体概況 》

- ・例年に比べ、天候にも恵まれ好調に推移したが、中旬以降に冷え込みと月末の台風の影響を受けた
- ・たばこの値上げが実施されたことによる反動や月末の台風の影響が懸念されたが、既存店昨年比で100%を確保できた
- ・猛暑の影響等により相変わらず野菜は相場高で推移し、鮮魚は近海魚の不漁等による旬の打ち出しが難しかった

## 《 商品動向 》

### ○ 農産

- ・野菜は相場高の中で売上好調。特にきゅうり、レタス、白菜、長ネギなどの主力野菜が大幅に伸長した
- ・野菜高騰により、小分け商品、カットサラダ、便利野菜などが売上好調だった
- ・天候が良好だったことで、梨、ぶどう、リンゴは食味がよく動きがいい反面、柿、みかんは不調だった

### ○ 水産

- ・猛暑の影響で、旬が1カ月ずれた生さんま、生さばは、時期を逸した感が強く商品が出回っても売上を確保することが出来なかった
- ・旬を迎えた生秋さけは、猛暑の影響で日本近海の水揚げ減、生カキは生育不足で小粒傾向となりともに不調だった
- ・水揚げのよいカツオ、ビン長まぐろ、天然ブリの刺身分類は、販売好調だった

### ○ 畜産

- ・牛肉は相場安の和牛を売り込んだことや月前半の気温が高かったことで、焼肉用、ステーキ用は好調に推移した
- ・野菜の高騰により、すき焼き用、しゃぶしゃぶ用肉は不振だった
- ・10月後半に入り気温が下がったこともあり、鶏肉を中心に鍋物商材の水たき用、鶏つくね等は好調だった

○ 惣菜

- ・惣菜全体として、先月までの猛暑による家庭内調理の減少や冷麺の需要拡大という追い風がなくなり消費が一段落した
- ・松茸と鮭弁当、鮭いくら弁当、さば味噌煮弁当等季節の食材を使った弁当の動向が良かった
- ・行楽や運動会のシーズンを迎え、鶏から揚げ、お寿司、行楽弁当等が好調だった

○ 日配・加工食品

- ・野菜相場高の影響により、トマトジュース、野菜飲料や冷凍野菜、漬物の浅漬け（白菜、野沢菜漬など）の動きが良かった
- ・夏の猛暑の影響により、米の相場安となり単価下落が止まらず不振だった
- ・10月中旬以降気温低下に伴い、鍋物商材、ホットメニューを中心に動きが良くなった

○ 秋の行楽シーズン

- ・おにぎり、お弁当用の塩鮭、筋子、たらこは好調に推移した
- ・週末の運動会に集中して弁当商材（昆布佃煮、ミートボール、ハンバーグ、焼売など）を販売し好調だった。行楽用のバーベキュー商材は不調だった
- ・気温が例年に比べ高かったこともあり、飲料、機能性飲料、ノンアルコールビール等も好調だった

○ その他

- ・10月1日より、値上げしたたばこの売上は、昨年に比べほぼ5割程度であった
- ・ボジョレーヌーボーの予約状況は、各社によって差はあるが概ね好調であった
- ・年金受給日の需要拡大を見込み、特に和菓子や米、酒等の生活必需品を中心に展開する
- ・秋の土用の丑の日に合わせ国産、中国産を併売する。天候、曜日、販促等の変動要因はあるが、順調に売上が確保できた

以上